

2026 年度 第 3 回コープ夢みらい四街道運営推進会議 議事録（公表用）

1. 開催概要

【開催日時】2026 年 8 月 21 日（金）15:00 ～ 15:40

【開催場所】コープ夢みらい四街道 地域交流スペース

【出席者】地域代表（町内会長、民生委員）、行政機関（市高齢者支援課）、医療機関（病院ソーシャルワーカー）、居宅介護支援事業所、当事業所関係者（管理者）

2. 報告事項

(1) 利用状況（2026 年 8 月 21 日現在）

- ・登録人数 14 名（男性 6 名、女性 8 名）
- ・年齢構成平均 82.0 歳（70 代:7 名、80 代 4 名、90 代:3 名）
- ・要介護度平均 2.9（要介護 1:5 名、要介護 3: 3 名、要介護 4: 4 名、要介護 5: 2 名）
- ・訪問実績（前月）月 307 回（送迎前後の短時間排泄介助・水分補給等を含む）
- ・通い実績（前月）月 170 日（1 日あたり 5 名～10 名程度）
- ・宿泊実績（前月）月 21 泊（定期利用 6 名 / 稼働日数 9 日間）

(2) 事例報告・対応支援の状況

①医療機関との連携による緊急宿泊対応

- ・主介護者の急病、体調不良に伴い、事業所単独での即時対応が困難であったため、医療機関の地域包括医療病棟（レスパイト）へ打診し入院受入を実施。その後、事業所での受入体制を整えて宿泊利用（3 泊 4 日）へ移行し、ご家族の体調回復に合わせて円滑な自宅生活復帰を支援した。

②ご夫婦での同時利用・認知症ケア

- ・医療的ケアが必要な方とその配偶者（認知症・要介護 1）の同時受入を実施。別室での利用としつつも、夜間に相互の様子を確認できるように配慮し、安心して過ごせる環境を整えている。

③段階的なアプローチによる在宅生活支援

- ・外出拒否が強い単身生活者に対し、まずは訪問（足の洗浄や軟膏塗布等）による関係構築から開始。本人のペースに合わせ、短時間のデイサービス利用から段階的に繋げる支援を行っている。

(3) 相談・受入状況および利用終了（直近 2 ヶ月）

- ・新規相談：計 8 件（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、病院・施設、家族等）
- ・見学 5 名、うち 3 名が新規利用開始。
- ・これまで以上に広域からの相談・利用が増加している。また、特別養護老人ホーム等か

らの一時的な利用相談や、要介護度改善に伴う在宅復帰支援の相談など、施設経由の依頼が増加傾向にある。

- ・ 終了報告 1 件（単身利用者の転倒・入院に伴い、施設入所へ移行のため終了）。

(4) 職員体制・研修状況

- ・ 介護職員 2 名が喀痰吸引等の第 3 号研修の实地研修を完了（認定申請中）。
- ・ 全職員 14 名（管理者、事務、看護師、介護職員、計画作成担当者）。引き続き、質の高いケアを提供するための人員確保に努めていく。

3. 意見交換・質疑応答（要旨）

- ・ 利用者が増えており、きめ細やかなサービス対応に安心感がある。地域の心強い存在として期待している。 地域代表（民生委員等）
- ・ 柔軟な対応が看多機の強みであるが、サービス品質維持・拡大のためには介護・看護スタッフの定着と確保が重要課題である。 事業所（管理者）
- ・ 遠方エリアにおいて移動時間等の課題から受け入れが難しくなるケースへの対策や、カバー体制の検討に期待したい。 行政機関（市高齢者支援課）
- ・ 訪問移動時間の制約により、お受けできない地域があることは課題と認識している。限られたリソースの中で最大限の工夫を行い対応していきたい。 事業所（管理者）
- ・ 退院後の受入先として、ご本人・ご家族にとって大変心強い環境である。雰囲気も明るく、安心して任せられる。 医療機関（病院ソーシャルワーカー）

4. 地域との交流・広報活動について

(1) 地域交流サロンの開催報告

- ・ 毎月第 3 水曜日の午後に地域交流サロン（参加費 100 円・茶菓付き）を開催。
- ・ 地域住民や近隣施設入居者の参加が定着しつつあり、会話を中心に交流を深めている。
- ・ サロン内の歓談を通じて出された介護・医療・生活の悩みに対し、併設の専門職（訪問看護・ケアマネジャー）が初期相談に応じる体制を構築している。

(2) 地域での視認性・認知度向上に向けた取り組み

- ・ 地域住民から「建物の用途や入りやすさが分かりづらい」との意見を受けた。看板・のぼり・ポスターの設置や、より気軽に立ち寄れる雰囲気づくりなどの広報・周知活動を進めていく。

5. 次回開催予定

- ・ 日時：2026 年 10 月 16 日（金）14:00～
- ・ 場所：コープ夢みらい四街道 地域交流スペース